

水曜通信 7

東北学院宗教センター編

2021年
4月

LIFE

LIGHT

LOVE



「降誕」(ルカによる福音書23:26-31)
「イエスの誕生」場面。
父・ヨセフに見守られ、母・マリアに
抱かれる幼子イエス。天使に告知さ
れ、喜びと賛美を捧げる羊飼いたち。
田中忠雄作 1987年

第1回

泉キャンパス礼拝堂
ステンドグラス紹介

本号より11回に亘って順次
ご紹介いたします。

「東日本大震災10年追悼礼拝」

東北学院の東日本大震災10年追悼礼拝が、発災と同日である3月11日14時30分より多賀城の大学キャンパス礼拝堂にて挙行された。当時の生々しい出来事を記録した『After 3. 11東日本大震災と東北学院』（東北学院刊行）によれば、東北学院は、この震災で5人の大学生の命を奪われた。とりわけ、津波に襲われた多賀城市内にほど近い、小高い丘に建つ堅牢な大学礼拝堂には、全身濡れたままの市民が、最大時600人近くまで避難してきた。その間、職員、学生はそれらの人々の介護や世話に追われた。あれから10年の歳月が過ぎ、残念ながら新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、その礼拝堂に市民をお招きすることはできなかったが、東北学院は、追悼礼拝を神に献げた。



イエス・キリストの父なる神は、あの時の出来事を通じて、何を私たちに示しているのか、暫し、想いに馳せることの出来た礼拝であった。

東北学院宗教センター所長
(院長・学長) 大西 晴樹

次回：第41回水曜公開礼拝
(公開オンライン礼拝) 4月21日配信予定
学校法人東北学院ホームページをご覧ください。(↓)

【第1部 礼拝】

説教：野村 信 (宗教センター主任・宗教部長)

奏楽：今井 奈緒子 (本学教養学部教授)

【第2部 音楽による賛美】

演奏：今井 奈緒子



第40回 水曜公開礼拝報告（説教：川島 堅二、奏楽：小野 なおみ）

2021年3月24日（水） 公開オンライン礼拝

讃美歌：187番「主よ、いのちのこばを」

聖書：ヨハネによる福音書 1章14節

讃美歌：452番「ただしく清くあらまし」

説教：「見ずして信じる幸い」

頌栄：544番「あまつみたみも」



【説教要旨】

ヨハネ福音書のテーマはイエス・キリストを「見る」ということにまつわる問題です。1章にはイエスを「見る」「見つめる」「会う」「出会う」という言葉が繰り返し使われています。同時に、2章以下を読み進めると、イエスが行った「しるし」（奇跡）を「見て」信じた人々をイエスは信用されなかったという事態も記されています。これはヨハネ福音書が執筆された紀元90年代のキリスト者が置かれていた状況を反映している。すなわち、生前のイエスを直接見た世代が少なくなっているという状況です。そういう中で、イエスを「見る」ことの重要性が確認されるとともに、最終的には「見ないで信じる」信仰（20章）の重要性が説かれるのです。（本学総合人文学科長 川島 堅二）

前奏：J.S.バッハ（1685-1750）

コラール編曲「我ら苦しみの極みにありても」BWV668a

後奏：J.S.バッハ（1685-1750）

《オルガン小曲集》より「われら汝に感謝す、主イエス・キリストよ」

前奏、後奏ともに受難節のコラールによるバッハの作品を演奏しました。前奏は、重い眼病とその直後の死によって未完となった「フーガの技法」の穴埋めとして追加された曲であり、失明のバッハが友人に口述筆記させたと伝えられています。後奏は勢いのある3拍子が十字架による死に勝利したキリストを想起させます。（礼拝オルガニスト 小野 なおみ）



礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏：小野 なおみ）

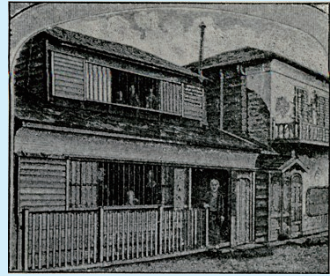
1. J.C.フォークラー（1714-1785）コラール前奏曲「イエスの悲しみと苦しみと死」
2. ブラームス（1833-1897）《11のコラール前奏曲》より 9.「心よりわれ しがれ望む」
3. ブラームス（1833-1897）《11のコラール前奏曲》より 10.「心よりわれ しがれ望む」

今回の収録は受難節に公開されるということで、死をテーマとしたコラールが用いられた作品を演奏しました。フォークラーの作品はP.シュトックマンによる受難のコラール（1633）によるものです。バッハはこのコラールを「ヨハネ受難曲」やカンタータ作品の中で用い、バッハに師事したフォークラーもこの作品において、イエスが十字架へと歩む道りを見事に表現しています。ブラームス生前最後の作品となった「11のコラール前奏曲」は、死の淵に立った彼の奥深い心が表れています。受難節は毎年春休みと重なるので、このような作品を大学礼拝で弾くことはありませんでしたが、今回の準備のため、薄暗い礼拝堂にスタンドグラスから一筋の光が差し込む中、心静かに受難の曲と向き合った時には、自然とコロナ禍の一年を思い起こしていました。イエスの十字架の死の後に復活が来たように、やがてこの礼拝堂にも多くの学生が集う日が来ることを心から望みます。（礼拝オルガニスト 小野 なおみ）



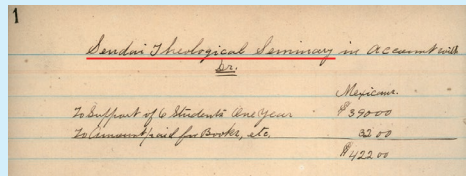
東北学院の草創期 (6) 「なにを？」

創立から一貫して東北学院を支え続けたドイツ改革派教会は、伝統的に教育を重視し、十分な神学的訓練を受けた牧師と教育のある信徒の育成には努力を惜しまない教派でした。ホーイが来日した1885年12月の時点で既に日本に派遣されていたグリングとモールの両宣教師は、東京と北関東に教会を設立すると共に、日本橋には小さいながらも学校を開設していました。(写真①)



写真①

ホーイは来日3日後に押川と出会い、すぐに仙台を視察しました。「仙台は重要な、そして将来性豊かな地方の中心都市」であり、現地の要望は青年男女のための「キリスト教学校」を設立することであると報告します。翌年1月早々に持たれた三人の宣教師による会議では、ホーイの仙台派遣を公式に決議し、7月に女学校設立の使命を帯びて仙台に着任した二人の婦人宣教師を迎えて行われた会議では、日本橋の学校を閉鎖し、本格的に仙台に集中することを決議しました。



この公式な決議に添えて、ホーイは既に5月から自らの判断で伝道者を養成する学校を始めたことを事後報告します。学校の会計簿には、ホーイの筆跡で“Sendai Theological Seminary”（仙台神学校）と書かれています。(写真②) (東北学院史資料センター 日野 哲)

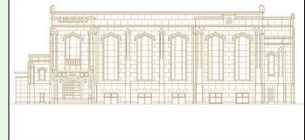
— 建築が語る東北学院の歴史 —

「建築との対話：礼拝堂建築調査の現場から」と題しまして、この連載をスタートしたのが2019年7月でした。2020年が激動の一年でしたので遠い昔のような気がしますが、私立大学研究ブランディング事業の一部として、ラーハウザー記念東北学院礼拝堂の建築を調査する機会をいただいたのが、始まりでした。以来、東北学院史資料センターに残されている建設時の設計図面や、建築家Jay H.モーガンとシュネーダー院長（当時）の間で交わされた書簡を読解し、また、学外研究者の助力を得ながら礼拝堂の建物自体の調査も行ってきました。

同時代の類例調査など、当初予定していた未だ実施できていない調査もありますが、去る2021年3月、一連の調査の一つの区切として、『ラーハウザー記念東北学院礼拝堂建造物調査報告書』を刊行しました。その一部は今後ホームページでも公開する予定ですが、冊子版が史資料センターや宗教センターにもありますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

次回より少し風呂敷を広げ、首題のテーマでコラムをお届けします。建築的視点から、東北学院の歴史を切り取っていきたいと思います。(続く) (工学部 崎山 俊雄)

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
建造物調査報告書



『ラーハウザー記念東北学院礼拝堂建造物調査報告書』

表紙の枠飾りについて

ラリングストーン（Lullingstone）の壁画の枠から借用しました。ラリングストーンは、ロンドンから東に45キロにあるローマ時代の邸宅遺跡。紀元後80年から5世紀までの遺跡で、現存する4世紀の壁画には、左右にアルファ（A）とオメガ（ω）が記されたキリスト（ΧΡΙΣΤΟΣ）のモノグラム<はじめの二つの文字であるキー（X）とロー（P）の組み合わせ：右下図>が描かれていることから、ローマ時代のイギリス唯一のキリスト教の遺跡であることがわかります。両手を広げるオランス（折り）の姿勢の等身大の立像が残り大英博物館で展示されています。



大英博物館にて 2012年11月28日撮影



Wikimedia Commonsより

美術による賛美（3）

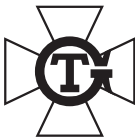


渡辺総一『讃美』カンバスに油彩、
181.8x227.3mm 2000年制作

土樋キャンパスの8号館の5階の押川ホールへの踊り場にある絵は、渡辺総一さん（1972年経済学部卒）の油彩画『讃美』です。

黙示録の第5章に基づき、中央の明るく照らされた場所の真ん中には「巻物」を手にする「玉座に座っておられる方」がいます。その方を「四つの生き物」が囲み、さらに「二十四人の長老」と「天と地と地の下と海にいるすべての被造物」が囲んで賛美しています。手前は魚で海です。詩篇の148編、さらには聖フランチェスコの『兄弟太陽の讃歌』（1224年頃）と同じく被造物すべてが神を賛美しています。渡辺さんは現代日本のキリスト教美術を代表する画家で国際的に活躍されています。

（理事長特別補佐・宗教センター担当 鐸木 道剛）



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第7号

2021年4月8日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1

発行責任者：宗教センター主任 野村信

東北学院宗教センター TEL：022-264-6558

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp